

科 目 名	情報・統計処理（健康） Informatics/Statistical Processing	単 位 数	1
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科（１年後期）[岐阜学関連科目]	科目区分	演習
担 当 者	松浦 康之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	統計学の基本的な概念を学ぶとともに実際の運用の場面での使い方を学ぶ。具体的には基本統計量、記述統計・推測統計の違い、正規分布、検定等とその応用を学習する。 統計の基礎について学び、演習を通じて、情報分析力と統計手法、データ活用の方法を身に着けることを目的とする。		
授業概要	最初に、表計算ソフトの利用法について学ぶ。次に、様々な情報を客観的に記述、解釈するための手段である統計の基礎について学び、その分析手順を修得する。次に、学んだ知識を使い、データ収集と収集したデータの分析を行う。実験的な演習・分析や、地域（岐阜）に関する実際のデータ（政府の公的統計など）の分析を通じて、学んだ知識の定着を行う。最後に、データサイエンスやAIに関する文献調査をし、プレゼンテーションによる発表を行い、お互いの発表を聞くことで、この分野に関する知識を深めるとともに、視野を広げる。 【SDGs：4, 9】 【岐阜学関連の授業回：⑪, ⑫, ⑬, ⑭, ⑮】		
授業計画	① ガイダンス、身近にある統計 ② 表計算ソフトの利用方法（関数など） ③ データビジュアライゼーション、データ分析ツール ④ 代表値とばらつき ⑤ クロス集計表、ヒストグラム ⑥ 四分位法、箱ひげ図 ⑦ 相関分析、回帰分析（１） ⑧ 相関分析、回帰分析（２） ⑨ 統計的仮説検定（１） ⑩ 統計的仮説検定（２） ⑪ 統計処理演習（１）データの収集と分析 ⑫ 統計処理演習（２）データの分析とまとめ ⑬ 統計処理演習（３）発表 ⑭ 統計処理演習（４）発表、データサイエンスとAIの関連 ⑮ 統計処理演習（５）発表、総括とまとめ		
予復習等	【予習】ガイダンスや毎回授業中に指示する。 【復習】講義内容を復習しながら、授業中に指示する課題等に取り組むこと。		
評価方法	平常点１５％、課題および授業内試験８５％		
履修条件	なし。		
教 科 書	なし、授業内で資料配布を行う。		
参 考 書	『Excelデータ分析の教科書』、日花弘子著、SBクリエイティブ株式会社出版		

科 目 名	食品学実験 Experiments in Food Science	単 位 数	1
		必選区分	栄養士必修
開講学科	健康栄養学科（１年前期）	科目区分	実験
担 当 者	道家 晶子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本学の食物栄養実験Lab. や天秤室、分析機器室で学生自ら食品の実験を行い、食品成分の性質や含有量について実験を通して学ぶことを目的とする。短期大学における最初の実験授業であるから、化学実験を安全に正確に行うための基礎的な知識や手法を身に付ける。一緒に実験する班員と協力しながら討議を重ねて、食品成分の特性や含有量について理解を深める。他の実験授業の基礎や将来の品質管理部門等で役立つ実験技術を習得しながら実験結果を考察する力を養い、簡潔で丁寧なレポート作成ができることを到達目標とする。		
授業概要	化学実験を安全に正確に行うための基礎的な知識や手法を確実に習得するため、実験器具の取り扱い法、精密機器の操作法、有効数字のまとめ方、データの解釈、実験器具の洗浄法、試薬の濃度計算と調製法、レポートの書き方を学ぶ。実験手法は易しいものから高度なものへ順に身に付けて行く。食品学の講義で学んだ食品成分と関連付け、学生自らが実験によって食品の特性を実証することにより、食品成分の理解を深める。 【SDGs：3, 4】		
授業計画	① 実験の全般的注意 ② 実験器具の取り扱い法・洗浄法 ③ 試薬の調製法・濃度計算法 ④ 食酢中の有機酸の定量 ⑤ 野菜のミネラルの定量 ⑥ 果物のビタミンの定量 ⑦ 食品成分間反応の実験 ⑧ 食品成分の変化に関する実験 ⑨ 試験一記述式（教科書・ノート等持ち込み不可）		
予復習等	【予習】授業で指定した教科書の該当ページを事前に読んでおくこと。 【復習】返却したレポートの添削箇所について見直しておくこと。		
評価方法	出席状況・授業態度30％、レポート20％、定期試験50％		
履修条件	学修規程による。		
教 科 書	食品学実験書第４版／著：藤田修三・山田和彦ほか／出版：医歯薬出版		
参 考 書	プリントを配布する。		

科 目 名	栄養学実験 Experiments in Nutritional Science	単 位 数	1
		必選区分	栄養士必修
開講学科	健康栄養学科（1年前期）	科目区分	実験
担 当 者	道家 晶子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	食品の栄養分析や栄養摂取法について、実験を通して理解を深めることを目的とする。食品学実験で学生自ら得たデータを栄養学的に解析し、日常の食生活での適切な栄養摂取に活かす力を養う。実験を通して、食品の栄養成分変化について理解し、栄養を損なわない食品の適切な取り扱いを行い、日常の食生活における適切な栄養摂取に活かすことを到達目標とする。		
授業概要	栄養成分について、食品の保存方法の違いによる栄養の変化、食品の成分間反応による生体や食品への影響、食品の成分含有量から適切な栄養の摂り方を考察、食品の機能性を活かした栄養など、食品学実験で学生自らが得たデータを元に、効果的な栄養摂取法について実践できる力を養う。		
	【SDGs：3, 4】		
授業計画	① 野菜・きのこ類のミネラルと栄養 ② 食用油脂の酸化防止と栄養 ③ 食品の抗酸化力を活かした栄養 ④ 酵素的褐変反応と抑制方法 ⑤ アミノカルボニル反応と糖化が及ぼす栄養 ⑥ アントシアニン色素と栄養 ⑦ 牛乳からカゼインの分離・確認と栄養 ⑧ 茶系飲料のタンニン量と栄養 ⑨ 試験一記述式（教科書・ノート等持ち込み不可）		
予復習等	【予習】授業で指定した教科書の該当ページを事前に読んでおくこと。 【復習】返却したレポートの修正箇所を見直すこと。		
評価方法	出席状況・授業態度30％、レポート20％、定期試験50％		
履修条件	学修規程による。		
教 科 書	食品学実験書第4版／著：藤田修三・山田和彦／出版：医歯薬出版		
参 考 書	プリントを配布する。		

科 目 名	調理学実習 Practicum of Cookery Science	単 位 数	1
		必選区分	栄養士必修
開講学科	健康栄養学科（1年前期）	科目区分	実習
担 当 者	佐喜眞 未帆	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	栄養士として必要な日常食（和・洋・中）を中心とした基礎的な調理を行い、調理学の理論に基づいた調理技術を習得するとともに必要な栄養量に応じた献立作成能力を身につける。		
授業概要	調理学、調理科学の理論をもとに日常食を中心に調理実習を行う。材料の計量、分配、調理、盛り付け、試食、後片付け、掃除という調理の一連の流れを通して食品の特性をふまえた基礎的な調理技術を身につける。実習を通して食品選択、栄養価計算、衛生管理、作業効率、配膳方法、食文化、食環境について学習するだけでなく、協調性やコミュニケーション能力を高める。 【SDGs：3, 4, 12】 【岐阜学関連の授業回：②～⑭】		
授業計画	① オリエンテーション：実習室の使い方、器具の扱い方、計量方法、栄養価計算① ② 日常食 炊飯、だしのとり方、栄養価計算② ③ 日本料理の調理実習① ④ 日本料理の調理実習② ⑤ 日本料理の調理実習③ ⑥ 西洋料理の調理実習① ⑦ 西洋料理の調理実習② ⑧ 西洋料理の調理実習③ ⑨ 中国料理の調理実習① ⑩ 中国料理の調理実習② ⑪ 中国料理の調理実習③ ⑫ 行事食①正月料理 ⑬ 行事食②クリスマス料理 ⑭ 自主献立 ⑮ 実技試験、まとめ		
予復習等	毎回作り方を予習する。 実習後は、実習ノートを作成し、材料、作り方、栄養価等について復習する。 調理技術向上のための練習（切る、皮をむく）をする。		
評価方法	出席状況・実習態度30％、実技試験10％、衛生管理（みだしなみ）10％、提出物50％		
履修条件	学修規程による		
教 科 書	食べ物と健康、給食の運営「調理学実習」第2版/大谷 貴美子ほか(編)/講談社 調理のためのベーシックデータ 第6版/女子栄養大学調理学研究室（監修）/女子栄養大学出版部 八訂食品成分表2024 ー栄養計算ソフト・電子版付ー/香川明夫（監修）/女子栄養大学出版部		
参 考 書	なし		

科 目 名	食 品 学 Food Science	単 位 数	2
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科（1年前期）	科目区分	講義
担 当 者	道家 晶子	教員区分	校内教員
授業目的 到達目標	学生が食品について科学的に理解し、適切に食品選択できる力を養うことを目的とする。食品を科学的に理解するために、食品に含まれる成分の構造、化学的性質、反応性、物性、機能性について学ぶ。食品の特性や性状変化を食品化学の視点から理解できるようにする。到達目標は学生が日常の食品選びや食品の取り扱いに活用できる実践的な食品力を高めること。栄養士として正しい食品の成分や機能について他者に説明できる力をつけることを目標とする。		
授業概要	食品学総論の内容について、第1章 食品とその働き、第2章 食品の分類と食品成分表、第3章 食品中の一般成分 第4章 食品の物性を順にわかりやすく講義する。また、実際の食品例を紹介して食品学各論の内容も取り入れる。授業で学ぶ食品成分について身近な食品中の成分の構造と機能、特定保健用食品、栄養機能食品、機能性表示食品の違い、食品成分表の使用法や活用法について解説する。氾濫する食品情報に惑わされずに、食品科学の視点から正しく理解して、適切に食品選択できる食品力を身に付け、栄養士として必要な基礎を学ぶ。 【SDGs：3, 4】 【岐阜学関連の授業回：⑤, ⑥, ⑦】		
授業計画	① 食品とその働き ② 食品の成分と分類 ③ 食品の分類と食品成分表 ④ 食品中の水分 ⑤ 食品中のタンパク質・ペプチド・アミノ酸 ⑥ 食品中の脂質 ⑦ 食品中の炭水化物・糖質 ⑧ 食品中の炭水化物・食物繊維 ⑨ 食品中のミネラル ⑩ 食品中のビタミン ⑪ 食品中の色素成分 ⑫ 食品中の香気成分 ⑬ 食品中の呈味成分 ⑭ 食品の機能性成分 ⑮ 食品の物性 ⑯ 試験—記述式（教科書・ノート等持ち込み不可）		
予復習等	【予習】授業で指定した教科書の該当ページを事前に読んでおくこと。 【復習】授業で学んだキーワードを説明できるようにしておくこと。		
評価方法	出席状況・授業態度20%、定期試験80%		
履修条件	学修規程による。		
教 科 書	イラスト食品学総論第9版／著：種村安子ほか／出版：東京教学社		
参 考 書	日本食品標準成分表		

科 目 名	基礎栄養学 Introductory Nutritional Science	単 位 数	2
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科（1年前期）【他学科専門科目】	科目区分	講義
担 当 者	小野 廣紀	教員区分	校内教員
授業目的 到達目標	健康の保持・増進、疾病予防における栄養素の生理的役割について理解する。 具体的には、栄養の基本的概念とその意義について理解する。 各栄養素（たんぱく質・炭水化物・脂質・ビタミン・ミネラル）の消化・吸収と役割について理解する。また、水・電解質の役割についても理解する。		
授業概要	ヒトが生きていくためには、水や空気（酸素）のほかに、食物（食品）を摂取しなければならない。食品には、生命を維持するために必要な成分が含まれており、これを栄養素とよんでいる。 基礎栄養学では、各栄養素（炭水化物・たんぱく質・脂質・ビタミン・ミネラル）が体内に入るしくみ（消化・吸収）や体内に入ったあとの各栄養素の役割について学ぶ。 また、水・電解質の役割についても学ぶ。 専門科目を学ぶ上での基礎科目となるので、しっかり勉強しよう！ 【SDGs：3, 4】		
授業計画	① オリエンテーション/栄養の概念 ② 栄養と健康・疾患 ③ 食物の摂取 ④ 栄養素別の消化と吸収 ⑤ 炭水化物の栄養① ⑥ 炭水化物の栄養② ⑦ たんぱく質の栄養① ⑧ たんぱく質の栄養② ⑨ 脂質の栄養① ⑩ 脂質の栄養② ⑪ ビタミンの栄養① ⑫ ビタミンの栄養② ⑬ ミネラルの栄養① ⑭ ミネラルの栄養② ⑮ 水・電解質の栄養学的意義 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】テキストの該当部分を読んでおく。 【復習】配布資料がある場合、再読し、ノートに整理し、理解する。		
評価方法	【自学科学生の場合】出席状況・授業態度10%、定期試験90% 【他学科学生の場合】出席状況・授業態度20%、レポート80%		
履修条件	なし		
教 科 書	『イラスト基礎栄養学 第4版』／著：大口健司ほか／出版：東京教学社		
参 考 書	なし		

科 目 名	ライフステージ栄養学Ⅰ Life Stage NutritionⅠ	単 位 数	2
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科（1年前期）【他学科専門科目】	科目区分	講義
担 当 者	吉川 亮平	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	・『日本人の食事摂取基準』と『栄養管理プロセス』を用いて各ライフステージにおける栄養管理を実践するための能力を養う。 ・主として健康な人の食事の管理を実践するために、『成長・発達・発育・加齢による変化』や『運動時や特殊環境下での代謝の変化』について理解する。		
授業概要	【担当者の実務経験：病院と介護老人保健施設にて管理栄養士として業務に従事した経験あり】 本講義では、人の一生の各ライフステージ(妊娠期、授乳期、新生児、乳児期、幼児期、学童期、思春期、成人期、更年期、高齢期)における栄養管理の背景と方法について学習する。具体的には栄養ケアを行うための方法、日本人の食事摂取基準の理解と活用、成長や加齢に伴う身体的・精神的な変化、各ライフステージの特徴、運動や環境と栄養の関連について学習する。主として健康な人に対する食事の管理を実践するための基盤を培う。 【SDGs：3, 4】		
授業計画	① オリエンテーション ② 栄養ケア・マネジメント ③ 栄養学の基礎 ④ 日本人の食事摂取基準の総論 ⑤ 日本人の食事摂取基準の各論：エネルギー産生栄養素 ⑥ 日本人の食事摂取基準の各論：ビタミン ⑦ 日本人の食事摂取基準の各論：ミネラル ⑧ 成長、発達、加齢 ⑨ 妊娠期、授乳期 ⑩ 新生児期、乳児期 ⑪ 成長期(幼児期、学童期、思春期) ⑫ 成人期 ⑬ 高齢期 ⑭ 運動とスポーツ ⑮ 環境と栄養 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】授業前に教科書の該当する内容の確認を行うこと。 【復習】授業の内容を復習し、理解を深めること。分からないことは調べたり質問すること。		
評価方法	【自科学学生の場合】出席状況及び授業態度20%、定期試験80% 【他科学学生の場合】出席状況30%、レポート70%		
履修条件	なし		
教科書	『栄養科学イラストレイテッド 応用栄養学 第3版』／著：栢下淳ほか／出版：羊土社 『日本人の食事摂取基準(2025年版)』／出版：第一出版株式会社		
参考書	『改訂新版 栄養管理プロセス』／著：木戸康博ほか／出版：第一出版株式会社 『第2巻 栄養学の基本』／出版：医歯薬出版株式会社		

科 目 名	調理学 Cookery Science	単 位 数	2
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科（1年前期）	科目区分	講義
担 当 者	池田 倫子	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	・食物の特性と食文化を知り、調理の意義や役割について理解できる。 ・調理学で得た知識を実際の調理を行う際に活用することができる。 ・食品の調理性や特徴について理解を深め、応用することができる。 ・調理方法や調理器具の適切な選択、調理による食品の成分変化を科学的な視点から理解し、説明できる。		
授業概要	調理とは「食品」を安全で美味しい「食物」に調整する事である。調理学はそのプロセスである食品の調理特性や栄養、調理操作に関する内容などを理論的に学ぶ科目である。「調理・栄養士の現場」では調理技術に付随し調理学の知識が必要不可欠となる。知識を生かし即戦力として活躍する栄養士になれるよう学習していく。 【SDGs：3, 4】		
授業計画	① 調理の意義・目的 ② 食べ物のおいしさと評価 ③ 調味操作① 非加熱調理 ④ 調味操作② 加熱調理 ⑤ 植物性食品の調理科学(1) 米と小麦 ⑥ 植物性食品の調理科学(2) いも類、豆類、種実類 ⑦ 植物性食品の調理科学(3) 野菜類 ⑧ 植物性食品の調理科学(4) 果実類、きのこ類、藻類 ⑨ 動物性食品の調理科学(1) 食肉類 魚介類 ⑩ 動物性食品の調理科学(2) 卵類、牛乳、乳製品 ⑪ 油脂類の調理科学 ⑫ ゲル化剤・とろり剤の調理科学 ⑬ 調味料・香辛料の調理科学 ⑭ 嗜好飲料の調理科学 ⑮ 授業のまとめと質疑応答 ⑯ 定期試験 筆記 教科書・ノートなど持ち込み不可		
予復習等	【予習】各回の教科書該当ページを事前に読んでおくこと。 【復習】教科書や配布資料を読み直し、理解を深めておくこと。		
評価方法	定期試験70% レポート30%		
履修条件	学修規定による		
教科書	健康・栄養系教科書シリーズ10 調理学/著：久木久美子他/出版：化学同人		
参考書	NEW 調理と理論/著：山崎清子他/出版：同文書院		

科 目 名	給食管理 Food Services	単 位 数	2
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科（1年前期）	科目区分	講義
担 当 者	佐喜眞 未帆	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	・給食の意義・役割を理解できる ・給食運営のマネジメントの概念について理解できる ・特定給食施設における利用者の特性に基づいた栄養・食事管理について理解できる ・給食の品質、生産、提供、安全、衛生、施設・設備について説明できる		
授業概要	本講義では、給食の概念や栄養管理、作業管理、施設・設備、衛生管理について総合的に学び、給食の運営を実施するために必要な知識と技術を習得する。また、特定給食施設（病院、福祉施設、学校、事業所、その他）における、給食の目的や特徴及び関係法規について理解し、それぞれの給食施設に沿ったマネジメントサイクルを学修する。 【SDGs：3, 4, 12】		
授業計画	① 給食の概念（1）集団給食の目的と定義 ② 給食の概念（2）関係法規と給食システム ③ 栄養管理（1）栄養・食事管理 ④ 栄養管理（2）給与栄養目標量の設定・献立計画 ⑤ 栄養管理（3）栄養・食事管理の評価 ⑥ 給食の品質・生産・提供管理（1）食材の流通と購買計画 ⑦ 給食の品質・生産・提供管理（2）食材の管理方法と評価 ⑧ 給食の品質・生産・提供管理（3）大量調理の方法、調理作業の管理 ⑨ 給食の品質・生産・提供管理（4）配食・配膳サービスの管理 ⑩ 安全・衛生管理（1）衛生教育、食中毒、HACCP ⑪ 安全・衛生管理（2）施設、設備保守管理、安全・衛生管理の評価、危機管理対策 ⑫ 給食の施設・設備管理 ⑬ 給食の運営組織・会計・原価管理 ⑭ 給食の事務管理（帳票） ⑮ 各給食施設の特徴（病院、福祉施設、学校、事業所、その他の施設） ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】前回の授業で指定した教科書の該当ページを事前に読んでくること。 【復習】教科書や配布資料などを参考に、授業内容を整理して理解を深めること。 授業内で提示した課題に取り組むこと。		
評価方法	出席状況・授業態度20％、提出物20％、定期試験60％		
履修条件	学修規程による		
教 科 書	エスカパーシック『給食の運営管理論―計画と実務―』改訂新版/編著：芦川修武ほか/出版：同文書院 『栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎』/編：坂本裕子ほか/出版：化学同人		
参 考 書	『日本人の食事摂取基準（2025年版）』：第一出版 『調理場における衛生管理&調理技術マニュアル』/著：文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課/出版：学健書院		

科 目 名	臨床栄養学 Clinical Nutrition	単 位 数	2
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科（1年後期）	科目区分	講義
担 当 者	吉川 亮平	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	・『診療ガイドライン』や『栄養管理プロセス』などを用いて傷病者の栄養食事療法を実践するための基礎力を養う。 ・臨床の現場で傷病者に対して、食事や栄養の管理を実践するためのシステムや制度について理解する。 ・傷病者に対して食事の管理を実践する上で、献立作成や調理などのポイントについて考える能力を養う。		
授業概要	【担当者の実務経験：病院と介護老人保健施設にて管理栄養士として業務に従事した経験あり】 疾病の予防や治療における栄養管理の重要性は医療の現場をはじめ広く認識されている。本講義では傷病者に対する栄養食事療法について学ぶ。 具体的には栄養管理を行うための方法や、医療・福祉領域における制度、疾患と栄養の関係などについて学習し、健康増進や疾患予防を実践するための知識を取得する。 基本的には教科書を用いて講義を行うが、診療ガイドラインなども活用し、根拠に基づいた栄養食事療法を行うための方法についても学習する。傷病者に対する食事の管理を実践するための基盤を培う。 【SDGs：3, 4】		
授業計画	① オリエンテーションと臨床栄養学の基礎 ② チーム医療、在宅医療 ③ 栄養ケアマネジメント、栄養アセスメント(概要、スクリーニング、臨床診査) ④ 栄養アセスメント(臨床検査、身体測定、食事調査、栄養診断) ⑤ 栄養ケア計画のプロセス、栄養食事療法(経口栄養法) ⑥ 栄養食事療法(経管栄養法、経静脈栄養法) ⑦ 薬と栄養・食物の相互作用、栄養ケアの記録 ⑧ 栄養教育の実施、モニタリングと再評価、栄養ケアの修正 ⑨ 代謝疾患・栄養障害 ⑩ 消化管疾患 ⑪ 肝・胆・膵疾患 ⑫ 循環器疾患 ⑬ 腎臓・尿路系(泌尿器系)疾患 ⑭ 内分泌疾患 ⑮ 神経・精神疾患 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】授業前に教科書の該当する内容の確認を行うこと。 【復習】授業の内容を復習し、理解を深めること。分からないことは調べたり質問すること。		
評価方法	出席状況及び授業態度20%、定期試験80%		
履修条件	なし		
教 科 書	『栄養科学イラストレイテッド 臨床栄養学 基礎編 第3版』/著：本田佳子ほか/出版：羊土社 『栄養科学イラストレイテッド 臨床栄養学 疾患別編 第3版』/著：本田佳子ほか/出版：羊土社		
参 考 書	『第2巻 栄養学の基本』/出版：医歯薬出版株式会社 『第7巻 臨床栄養学』/出版：医歯薬出版株式会社 『臨床病態栄養学 第4版』/出版：文光堂		

科 目 名	ライフステージ栄養学実習 Practicum of Life Stage Nutrition	単 位 数	1
		必選区分	栄養士必修
開講学科	健康栄養学科（１年後期）〔岐阜学関連科目〕	科目区分	実習
担 当 者	吉川 亮平	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	・『日本人の食事摂取基準』と『栄養管理プロセス』を用いて各ライフステージにおける栄養管理を実践するための能力を養う。 ・各ライフステージごとに食事の管理を実践する上で、献立作成や調理などのポイントについて考える能力を養う。		
授業概要	【担当者の実務経験：病院と介護老人保健施設にて管理栄養士として業務に従事した経験あり】 本実習では、人の一生の各ライフステージ(妊娠期、授乳期、新生児、乳児期、幼児期、学童期、思春期、成人期、更年期、高齢期)の栄養管理について、課題の抽出、介入計画の立案、栄養介入、モニタリング、再評価の流れを学ぶ。 実習の前半では、栄養管理の国際的な基準である『栄養管理プロセス』の技術を身につけるための演習と実習を行う。実習の後半では各ライフステージ別に食事の管理を行うための技術を身につけるための演習と実習を行う。 【SDGs：3, 4】 【岐阜学関連の授業回：⑩】		
授業計画	① 栄養管理プロセスの概要 ② 栄養管理プロセス：栄養スクリーニング、栄養評価 ③ 栄養管理プロセス：栄養診断 ④ 栄養管理プロセス：栄養介入、モニタリング、再評価 ⑤ 妊娠期、授乳期の栄養管理 ⑥ 妊娠期、授乳期の調理実習 ⑦ 新生児、乳児期の栄養管理 ⑧ 新生児、乳児期の調理実習 ⑨ 幼児期、学童期、思春期の栄養管理 ⑩ 幼児期、学童期、思春期の調理実習 ⑪ 成人期、更年期の栄養管理 ⑫ 成人期、更年期の調理実習 ⑬ 高齢期の栄養管理 ⑭ 高齢期の調理実習 ⑮ まとめ		
予復習等	【予習】授業前に該当する内容の確認と復習を行うこと。 【復習】授業の内容を復習し、理解を深めること。		
評価方法	出席状況及び授業態度20%、実習課題80%		
履修条件	なし		
教 科 書	『栄養科学シリーズNEXT NEXT応用栄養学実習 第2版』／著：木戸康博ほか／出版：講談社 『改訂新版 栄養管理プロセス』／著：木戸康博ほか／出版：第一出版株式会社 『日本人の食事摂取基準(2025年版)』／出版：第一出版株式会社		
参 考 書	必要に応じて、適宜紹介する。		

科 目 名	給食管理実習Ⅰ Practicum of Food ServicesⅠ	単 位 数	1
		必選区分	栄養士必修
開講学科	健康栄養学科（１年後期）〔岐阜学関連科目〕	科目区分	実習
担 当 者	佐喜眞 未帆	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	・喫食者の特性をふまえ、給与栄養目標量を満たす献立作成ができる ・限られた時間で人員・設備を考えた作業工程表を作成し、実施ができる ・大量調理施設衛生管理マニュアルを習得し、実践活用ができる ・自らの課題を明確にし、グループ内、グループ間の連携をとり、協働することができる		
授業概要	給食管理で学んだ理論を基に給食運営の実際を実習を通じて理解する。給食の計画（献立作成、食材発注、栄養指導）、大量調理の実施、共食時の環境管理、評価（PDCA）など、給食全般の流れや技能を習得する。実習では栄養士班、調理員班に分かれ、大量調理施設衛生管理マニュアルを遵守し、安全を確保した作業管理を行う。 【SDGs：3, 4, 12】 【岐阜学関連の授業回：②, ⑤】		
授業計画	① オリエンテーション、厨房ツアー、厨房の掃除、帳票説明 ② 献立の立案（主菜・副菜）、作業工程表作成 ③ 大量調理基礎実習（１）基本献立Aを使用し、厨房実習を行う ④ 大量調理基礎実習（２）基本献立Bを使用し、厨房実習を行う ⑤ 作業工程表の確認・修正、栄養指導媒体の作成、厨房実習シミュレーション ⑥ 大量調理発展実習（１）基本献立Aの展開、厨房実習を行う ⑦ 大量調理発展実習（２）基本献立Bの展開、厨房実習を行う ⑧ 実習のまとめ、レポート提出 大量調理実習では、栄養士班、調理員班に分かれて作業を行います。 作業内容をよく把握し、各自課題を持ち責任ある行動をとること。 事前に帳票類の提出を求めます。責任を持って期日までに提出すること。 また、安全な実習を行うため、健康管理、グループ内、グループ間の連携、協働が求められます。		
予復習等	【予習】給食管理で学修した内容を復習しておく。大量調理施設衛生管理マニュアルを熟読し、厨房実習では、担当する作業内容の確認と全体の流れを把握する。 【復習】当日の作業（担当及び全体）について反省点・改善点をまとめる。		
評価方法	出席状況・実習態度３０％、事前事後の準備３０％、提出物４０％		
履修条件	「給食管理」を履修していること。 腸内細菌検査を受けること（検査項目及び検査日は初回の講義で指定する）。		
教 科 書	『給食の運営管理実習テキスト（第8版）』/著：辻村由美ほか/出版：第一出版 『調理場における衛生管理&調理技術マニュアル』/著：文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課/出版：学健書院		
参 考 書	『日本人の食事摂取基準（2025年版）』/第一出版 エスカパーシク『給食の運営管理論—計画と実務—』改訂新版/編著：芦川修武ほか/出版：同文書院		

科 目 名	解剖生理学 Human Anatomy and Physiology	単 位 数	2
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科（１年後期）	科目区分	講義
担 当 者	相川 悠貴	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	●各器官系の構造に関する用語を覚える。 ●各器官系の機能を理解する。 ●栄養における各器官系の機能を説明できる。 ●各器官系の健康な状態と異常な状態の違いを理解できる。		
授業概要	健康管理の手段を学ぶためには、対象となる人体を構築する器官・臓器・組織の構造・機能について理解する必要があります。その理解をもとに、栄養の消化吸收機構、病気の状態、傷病者に対する栄養管理等の発展的な知識を身に着けていくことになります。本講義で獲得する知識は、基礎栄養学、ライフステージ栄養学、病理学、臨床栄養学等、栄養士関連科目を学ぶ上での土台になる。 【SDGs：3】		
授業計画	① 人体の構造・器官・組織 ② 細胞・組織の構成 ③ 消化器系1：消化管の構成と嚥下・咀嚼・消化管運動 ④ 消化器系2：消化・吸収 ⑤ 循環器系 ⑥ 小テスト①と解説・復習 ⑦ 血液系 ⑧ 呼吸器系 ⑨ 腎・尿路系 ⑩ 骨格系、筋肉系 ⑪ 小テスト②と解説・復習、生殖器系 ⑫ 内分泌系 ⑬ 神経系 ⑭ 感覚器系、免疫系 ⑮ 消化器系と腎・尿路系を中心とした復習 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】 教科書の次回学習内容範囲を読んでおく。 【復習】 授業内で紹介した重要箇所の読み直しを行い、理解と記憶に努める。		
評価方法	小テスト50％、定期試験50％		
履修条件	学修規定による。		
教 科 書	『栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学 人体の構造と機能 第3版』／編：志村二三夫、岡純、山田和彦／出版：羊土社		
参 考 書	授業内で紹介する。		

科 目 名	生化学 Biochemistry	単 位 数	2
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科（１年後期）	科目区分	講義
担 当 者	小野 廣紀	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	生化学とは、化学的手段によって生命現象を解明する学問である。ヒトのからだを構成している細胞の生命現象を化学的に理解する。具体的には、細胞の基本構造・細胞内小器官・細胞膜の機能などを理解する。また、生体を構成している成分については、構造・性質・役割について理解する。		
授業概要	毎日、食べている食物（栄養素）！「身体のなかでどうなるの？」基礎栄養学で学んだ知識を活かして、考えてみよう。 私たちのからだは、約37兆個の細胞からできているといわれている。それぞれの細胞は生きるために「何をしているの？」生命現象について、細胞のしくみから学ぼう。 ヒトのからだを構成する最小単位である細胞のしくみを知り、細胞が行う代謝を体系的に理解しよう。 【SDGs：3, 4】		
授業計画	① オリエンテーション（生化学で何を学ぶのか） ② 人体の構成〔細胞の構造と機能（細胞内小器官）〕 ③ 生体のエネルギー ④ 糖質の代謝①〔解糖系、T C A回路（別名：クエン酸回路）〕 ⑤ 糖質の代謝②（グリコーゲン代謝、血糖調節と糖新生） ⑥ 脂質の代謝①〔脂肪酸の分解（β酸化）とケトン体〕 ⑦ 脂質の代謝②（脂肪酸合成、コレステロール合成） ⑧ たんぱく質の代謝①（たんぱく質、アミノ酸） ⑨ たんぱく質の代謝②（アミノ酸代謝、尿素サイクル） ⑩ 酵素 ⑪ 核酸の代謝①（ヌクレオチド、ヌクレオチド代謝） ⑫ 核酸の代謝②（遺伝子） ⑬ 核酸の代謝③（遺伝情報とたんぱく質合成） ⑭ 遺伝に関するトピックス ⑮ ホルモン ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】 テキストの該当部分を読んでおく。 【復習】 配布資料がある場合、再読し、ノートに整理し、理解する。		
評価方法	出席状況・授業態度１０％、定期試験９０％		
履修条件	なし		
教 科 書	『生化学』／著：小野廣紀ほか／出版：化学同人		
参 考 書	なし		

科 目 名	食 品 衛 生 学 Food Hygiene and Safety Science	単 位 数	2
		必 選 区 分	必修
開講学科	健康栄養学科（１年後期）	科 目 区 分	講義
担 当 者	稲垣 瑞穂	教 員 区 分	非常勤講師
授業目的 到達目標	・食品安全にかかる行政組織について説明できる。 ・食品衛生に関連する法律の概要を説明できる。 ・食中毒の予防と衛生管理、食品添加物の役割等、食品の安全性について説明できる。 ・食品衛生に関する知識を身につけ、食品の安全性を確保するための基本的な事項を説明できる。 ・食品の安全性に関する様々な視点から、健康危害の要因を予測・考察できる。		
授業概要	本講義では「食の安心・安全はどのようにして作られているのか」を食品衛生行政および管理の視点からお話します。社会では、状況に応じて食品衛生学の基礎知識を生かした対応が求められることから、食品衛生にまつわる過去の事件や事故もあわせて紹介したいと思います。 【SDGs：3, 4】		
授業計画	① 食品衛生行政と法規 ② 食品の変質（１） ③ 食品の変質（２） ④ 食中毒（１） ⑤ 食中毒（２） ⑥ 食中毒（３） ⑦ 食品による感染症・寄生虫症 ⑧ 中間試験（教科書・ノート持ち込み不可） ⑨ 食品衛生管理 ⑩ 食品中の汚染物質（１） ⑪ 食品中の汚染物質（２） ⑫ 食品添加物（１） ⑬ 食品添加物（２） ⑭ 新しい食品の安全性問題 ⑮ 食品の表示と規格基準 ⑯ 定期試験（教科書・ノート持ち込み不可）		
予復習等	【予習】各回の教科書の該当ページを事前に読んでおくと、深く理解ができると思います。 【復習】教科書や配布資料を読み、早期の復習を心がけてほしいです。		
評価方法	出席状況１０％、小テスト２０％、中間試験３５％、定期試験３５％ ＊小テスト：前回分の授業内容に関する内容（５～１０分程度）		
履修条件	学修規定による。		
教 科 書	『イラスト食品の安全性 第4版』／著：小塚論編他／出版：東京教学社		
参 考 書	『栄養科学イラストレイテッド 食品衛生学』編：田崎達明／出版：羊土社		

科 目 名	栄 養 指 導 論 Nutritional Guidance	単 位 数	2
		必 選 区 分	必修
開講学科	健康栄養学科（１年後期）【岐阜学関連科目】	科 目 区 分	講義
担 当 者	長屋 郁子	教 員 区 分	学内教員
授業目的 到達目標	・栄養指導の概念及び意義を理解し、説明できる。 ・栄養教育マネジメントを理解し、説明できる。 ・人の食行動や行動変容に関する基本的な理論・モデル及びカウンセリングの理論・技法を理解し、説明できる。 ・様々なライフステージやライフスタイルに応じた栄養教育の特徴や留意点について理解し、対象に応じた支援の特徴を説明できる。		
授業概要	【担当者の実務経験：小学校等で管理栄養士として業務に従事した経験あり。】 人は生きるためだけに食べるのではなく、人の食行動には様々な意味合いや価値があります。栄養指導の目的は、人々が健康の維持・増進やQOLの向上を目指して、自らの食行動を望ましい方向に主体的に変容し、さらに定着してもらえるように支援することです。本講義では、栄養士が行う対象特性に応じた栄養指導・栄養教育の意義や目的、基本的な行動変容に関する理論などを解説します。多様な場における具体例は、実務経験をもとに紹介します。 【SDGs：3, 4】 【岐阜学関連の授業回：⑩, ⑫, ⑮】		
授業計画	① 栄養教育の概念、栄養教育と行動科学 ② 栄養教育と行動科学（１）個人要因に焦点をあてた行動変容の理論とモデル ③ 栄養教育と行動科学（２）対人関係に焦点をあてた行動変容の理論とモデル ④ 栄養指導と行動科学（３）環境要因に焦点をあてた行動変容の理論とモデル ⑤ 栄養指導と行動科学（４）地域レベルに焦点をあてた行動変容の理論とモデル ⑥ 栄養カウンセリング、行動変容のための技法 ⑦ 栄養教育マネジメント（１）アセスメント、目標設定、計画立案 ⑧ 栄養教育マネジメント（２）実施、評価 ⑨ ライフステージ別の栄養教育の展開（１）妊娠・授乳期 ⑩ ライフステージ別の栄養教育の展開（２）乳児期 ⑪ ライフステージ別の栄養教育の展開（３）幼児期 ⑫ ライフステージ別の栄養教育の展開（４）学童期 ⑬ ライフステージ別の栄養教育の展開（５）思春期 ⑭ ライフステージ別の栄養教育の展開（７）成人期 ⑮ ライフステージ別の栄養教育の展開（８）高齢期 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】教科書の該当ページを事前に読んでくること。 【復習】教科書や配布資料などを参考に、授業内容を整理して理解を深めること。		
評価方法	出席状況・受講態度３０％、定期試験７０％		
履修条件	学修規定による		
教 科 書	『健康・栄養科学シリーズ 栄養教育』／編：武見ゆかり他／出版：南江堂		
参 考 書	『カレント栄養教育論』／編：杉山みち子他／建帛社 『人間の行動変容に関する基本』／編：武見ゆかり他／出版：医歯薬出版		

科 目 名	地域食文化論 Local Food Culture	単 位 数	2
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科（１年前期）〔岐阜学関連科目〕	科目区分	講義
担 当 者	長屋 郁子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	・食文化の概念を理解する。 ・日本の食文化形成と展開を理解する。 ・地域（岐阜県）の特徴ある食文化を理解し、身近な地域の食文化への関心を深める。 ・栄養士が担う栄養の指導、食育推進、食文化継承の意義を理解する。		
授業概要	【担当者の実務経験：小学校等で管理栄養士として業務に従事した経験あり。授業計画⑨～⑭の回はそれぞれのテーマについて従事している外部講師が担当】 日本の自然と社会環境で形成されてきた食文化について、現代までにどのように変化してきたのか、諸外国の異文化が日本に与えた影響などを学びます。地域の風土と歴史を理解し、年中行事や通過儀礼の食、郷土料理など各地の特徴ある食文化継承の意義を考えます。講義内容の理解を深めるため、岐阜の食育・食文化継承に携わる様々な分野の外部講師から、管理栄養士・栄養士の役割を具体的に学びます。 【SDGs：3, 4】 【岐阜学関連の授業回：⑧, ⑨, ⑩, ⑪, ⑫, ⑬, ⑭】		
授業計画	① 食文化とは ② 日本の食文化形成と展開、世界の異文化の影響 ③ 日本の食文化の特徴（１）食材 ④ 日本の食文化の特徴（２）和食文化 ⑤ 日本の食文化の特徴（３）行事と地域の食文化 ⑥ 栄養教育・健康教育・ヘルスプロモーション・食育 ⑦ 食育基本法・第4次食育推進基本計画 ⑧ 岐阜の食育・食文化（１）岐阜県の食生活・食育の現状 ⑨ 岐阜の食育・食文化（２）岐阜の伝統食（外部講師①） ⑩ 岐阜の食育・食文化（３）岐阜の食材を活用した商品開発（外部講師②） ⑪ 岐阜の食育・食文化（４）岐阜の食材を活用した外食産業（外部講師③） ⑫ 岐阜の食育・食文化（５）地域における栄養の指導（外部講師④） ⑬ 岐阜の食育・食文化（６）地域における栄養の指導（外部講師⑤） ⑭ 岐阜の食育・食文化（７）地域における栄養の指導（外部講師⑥） ⑮ まとめ 定期試験		
予復習等	【予習】本、新聞、インターネットなどで地域の食文化に関することを調べてみる。 【復習】配布資料などを活用し、疑問に感じたことを調べ、理解を深める。		
評価方法	出席状況及・受講態度２０％、レポート課題８０％（課題の詳細は初回に説明）		
履修条件	学修規定による		
教 科 書	なし		
参 考 書	『日本の食文化「和食」の継承と食育』／編：江原絢子他／出版：アイ・ケイ・コーポレーション		

科 目 名	身体運動科学 Science of human movement and exercise	単 位 数	2
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科（１年後期）	科目区分	講義
担 当 者	佐野 真也	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	この授業では、運動する時に体内で起こる生理学的反応や体力が向上する仕組みなどを理解し、健康維持・増進のための運動プログラムを自分自身で作成・実行できるようになることを目的とします。そのために、以下を到達目標とします。 ・運動によって身体がどのように応答し変化していくかを理解する ・運動による負荷の大きさなどの条件と身体で起こる長期的変化との関係性を理解する ・運動プログラムを自ら作成し、結果を確認することが出来るようになる		
授業概要	運動をする時、安静にしている時とは異なる様々な生理学的反応が身体の中では起きています。また、運動を継続的に長期間行うと、体内の機能に向上がみられるようになります。このような、運動によって身体の内部で起こる即時的な応答や長期的変化の仕組みに関する基本的事項を学修していきます。また、皆さん自身の体力レベルの現状確認や一定期間の運動後の変化の確認なども実施します。運動プログラムの作成と進行状況に合わせた修正を授業の中で行い、プログラムに基づいた運動は授業時間外に皆さんが自ら実施します。実践を伴いながら進めることで、より深く基本的事項を理解していきます。		
授業計画	① ガイダンス ② 暑熱環境での運動と水分補給 ③ 運動時の水分補給：実践 ④ 体力テスト：現状の確認(1) ⑤ 体力テスト：現状の確認(2) ⑥ 体力トレーニングの原理・原則とプログラム作成 ⑦ 運動に対する身体の生理学的応答と変化：筋系 ⑧ 運動に対する身体の生理学的応答と変化：呼吸・循環系(1) ⑨ 運動に対する身体の生理学的応答と変化：呼吸・循環系(2) ⑩ トレーニング強度の設定：実践 ⑪ 身体動作の神経制御 ⑫ ウェイトコントロールと栄養 ⑬ 体力テスト：変化の確認(1) ⑭ 体力テスト：変化の確認(2) ⑮ まとめ		
予復習等	【予習】各回のテーマに関連する内容を書籍等で確認しておいてください。 【復習】講義で取り扱った内容について、書籍等で詳細を確認してください。		
評価方法	受講状況・態度６０％、レポート４０％		
履修条件	なし。ただし、授業で作成する運動プログラムに基づき自分自身で運動を実施できることが望ましい。		
教 科 書	なし		
参 考 書	なし		

科 目 名	公衆衛生学 Public Health	単 位 数	2
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科（２年前期）	科目区分	講義
担 当 者	松井 卓哉	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	・わが国の健康に関する施策を理解し説明可能となる。 ・わが国の健康に関する問題点について考えることができる。 ・健康と栄養、摂食行動の関係が理解できる。 ・公衆衛生学において重要な疾患について説明できる。 ・公衆衛生学において重要な疾患の予防について理解できる。		
授業概要	公衆衛生の視点において“栄養”は人々の健康に関わる主要因子です。食物栄養学科で学ぶためには、公衆衛生学の基礎知識を身につけ応用できるようにする必要があります。人間や生活が社会環境とどのように関連しているか理解し、健康の概念、健康に暮らすための組織について知り、保健統計や疫学的手法を正しく解釈できることを目指します。また公衆衛生学において特に問題となる疾患について学び、その予防についても言及します。【SDGs：3】		
授業計画	① 社会と健康 ② 環境と健康 ③ 健康、疾患、行動にかかわる統計資料 ④ 健康状態・疾患の測定と評価 ⑤ 情報とコミュニケーション ⑥ 生活習慣の現状 ⑦ 腫瘍疾患の疫学と予防対策 ⑧ 保険・医療・福祉の制度 ⑨ 地域保健 ⑩ 母子保健 ⑪ 成人保健 ⑫ 高齢者保健・介護 ⑬ 産業保健 ⑭ 学校保健 ⑮ 国際保健 ⑯ 試験		
予復習等	【予習】前回の授業で指定した教科書の該当ページを事前に読んでおく。 【復習】配布資料の重要箇所を読み直す。		
評価方法	出席状況及び授業態度３０％ 定期試験７０％		
履修条件	学修規定による。		
教 科 書	社会・環境と健康 公衆衛生学（２０２５年版）/柳川洋 ほか/医歯薬出版株式会社		
参 考 書	社会・環境と健康 2024-2025 / 吉池信男 ほか/ 南江堂		

科 目 名	社会福祉概論 Introduction to Social Welfare	単 位 数	2
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科（２年後期）	科目区分	講義
担 当 者	成瀬 康弘	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	【授業目的】社会福祉の理念、基本的な考え方や社会福祉制度を理解するとともに、各分野の福祉現場の現状を理解する。 【到達目標】①社会福祉の理念、基本的な考え方を理解できる。②社会福祉制度を理解できる。③各分野の福祉現場の現状を理解する。		
授業概要	【担当者の実務経験：医療ソーシャルワーカー、地域ソーシャルワーカーの経験あり。】 今日、社会の福祉ニーズは多様化し、それに応じて福祉サービスや提供主体も多様化してきた。また、社会福祉基礎構造改革の流れの中で、自己決定・契約による福祉サービス提供の仕組みが確立され、それを支えるサブシステムが構築されてきた。現在も、社会福祉のフィールドは拡充している。それらを踏まえて、授業ではテキストに加え、当日の配布資料を活用しつつ、できるだけ当日の授業の中で福祉臨床に学生の関心を持たせるべく、社会福祉固有の現場を重視した授業展開を目指している。また、毎回、授業の感想や疑問点を提出させ、次回の授業で回答していく形式を採っている。授業ではプリント、PPT、VTR、DVD を活用するとともに、機会がある限り、社会見学も採り入れる方針である。なお、授業の順番と授業テーマは変更される場合がある。【SDGs：3】		
授業計画	① 現代社会と社会福祉 ② 社会福祉の歴史・日本における社会福祉の展開 ③ 社会福祉サービス利用の仕組み・社会福祉法制の体系・運営実施体制 ④ 刑事司法福祉(入口支援と出口支援・更生保護) ⑤ 司法福祉(権利擁護と成年後見制度) ⑥ 高齢者福祉 ⑦ 介護保険制度 ⑧ 障がい者福祉 ⑨ 児童家庭福祉 ⑩ 低所得者福祉 ⑪ 社会保障制度 ⑫ 地域福祉 ⑬ 社会福祉援助対象と福祉ニーズ ⑭ 社会福祉援助技術 ⑮ 社会福祉の担い手 ⑯ 試験による評価		
予復習等	【予習】日々の生活の中で、社会福祉に関心を寄せる。 【復習】授業内容・配布資料・テキストを復習する。		
評価方法	定期試験(８０％)レポート提出状況及び受講参加・態度を(２０％)を合計して評価		
履修条件	なし		
教 科 書	初回の授業で指定する。		
参 考 書	なし（プリント、PPT、VTR、DVD を活用する。）		

科 目 名	生化学実験 Experiments in Biochemistry	単 位 数	1
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科（2年前期）	科目区分	実験
担 当 者	小野 廣紀	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	実験は危険を伴うものである。実験を安全に行うために、実験器具の基本的な操作方法を学ぶ。 「生化学Ⅰ」で修得した知識を基礎として、生化学実験では、人体が行う消化や酵素などに関する実験を行い、これらの特性や分析方法について理解する。また、実験を通じて、消化のしくみや生体構成成分の役割について理解を深め、説明できるようにする。		
授業概要	生化学とは、化学的手段によって生命現象を解明する学問である。「生化学Ⅰ」で修得した知識を基礎として、生化学実験では、人体が行う消化や酵素などに関する実験を行う。三大栄養素の消化実験では、ヒトの消化のしくみを試験管内で確認する。また、酵素活性の測定においては、分光光度計の取り扱い方を学ぶ。生化学実験を通じて、種々の分析方法を習得するとともに、講義のみでは理解しにくい生命現象を化学的に理解する。		
授業計画	① オリエンテーション（レポートの書き方、実験の心得） ② たんぱく質の定量法（ローリー法） ③ 酵素実験Ⅰ ④ 酵素実験Ⅱ ⑤ トリプシン阻害反応実験 ⑥ 糖質の消化実験 ⑦ 脂肪とたんぱく質の消化実験 ⑧ 人工イクラを作ろう！ ⑨ 定期試験		
予復習等	【予習】実験書の該当部分を読んでおく。 【復習】実験結果についてデータを整理・分析して、レポートを作成する。		
評価方法	出席状況・授業態度10％、レポート20％、定期試験70％		
履修条件	なし		
教科書	毎回、実験書を配布する。		
参考書	『生化学』／著：小野廣紀ほか／出版：化学同人		

科 目 名	身体運動科学 Science of human movement and exercise	単 位 数	2
		必選区分	選択
開講学科	健康栄養学科（2年後期）	科目区分	講義
担 当 者	佐野 真也	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	この授業では、運動する時に体内で起こる生理学的反応や体力が向上する仕組みなどを理解し、健康維持・増進のための運動プログラムを自分自身で作成・実行できるようになることを目的とします。そのために、以下を到達目標とします。 ・運動によって身体がどのように応答し変化していくかを理解する ・運動による負荷の大きさなどの条件と身体で起こる長期的変化との関係性を理解する ・運動プログラムを自ら作成し、結果を確認することが出来るようになる		
授業概要	運動をする時、安静にしている時とは異なる様々な生理学的反応が身体の中では起きています。また、運動を継続的に長期間行くと、体内の機能に向上がみられるようになります。このような、運動によって身体の内部で起こる即時的な応答や長期的変化の仕組みに関する基本的事項を学修していきます。また、皆さん自身の体力レベルの現状確認や一定期間の運動後の変化の確認なども実施します。運動プログラムの作成と進行状況に合わせた修正を授業の中で行い、プログラムに基づいた運動は授業時間外に皆さんが自ら実施します。実践を伴いながら進めることで、より深く基本的事項を理解していきます。		
授業計画	① ガイダンス ② 暑熱環境での運動と水分補給 ③ 運動時の水分補給：実践 ④ 体力テスト：現状の確認(1) ⑤ 体力テスト：現状の確認(2) ⑥ 体力トレーニングの原理・原則とプログラム作成 ⑦ 運動に対する身体の生理学的応答と変化：筋系 ⑧ 運動に対する身体の生理学的応答と変化：呼吸・循環系(1) ⑨ 運動に対する身体の生理学的応答と変化：呼吸・循環系(2) ⑩ トレーニング強度の設定：実践 ⑪ 身体動作の神経制御 ⑫ ウェイトコントロールと栄養 ⑬ 体力テスト：変化の確認(1) ⑭ 体力テスト：変化の確認(2) ⑮ まとめ		
予復習等	【予習】各回のテーマに関連する内容を書籍等で確認しておいてください。 【復習】講義で取り扱った内容について、書籍等で詳細を確認してください。		
評価方法	受講状況・態度60％、レポート40％		
履修条件	なし。ただし、授業で作成する運動プログラムに基づき自分自身で運動を実施できることが望ましい。		
教科書	なし		
参考書	なし		

科 目 名	身体の科学 Physical Science		単 位 数	2
			必選区分	選択
開講学科	健康栄養学科（2年前期）		科目区分	講義
担 当 者	廣瀬 玲子		教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	生理学的事象を各器官の役割から体系立てて説明ができる。免疫システムと感染症、アレルギー反応の説明ができる。感覚機能、中枢神経系と認知機能の説明ができる。ホルモンの役割と各臓器の関係について説明できる。人体の各部位について健康な状態と問題が生じた場合の生理学的変化が理解できる。今年度は、これらの学びからライフサイクルの実際の生活の中で、自分自身が科学的根拠を持って考え、自分の生活にも生かせるようになる。			
授業概要	【担当者の実務経験：医師・看護師・管理栄養士であり、病院・公的機関・医療の教育機関等での臨床実務経験あり】（担当者らは現在も現役で実務臨床をしているため、講義の予定や内容や順番に変更あり） 解剖生理学で学んだ内容を基に、発展的学習を進めます。ライフサイクルの中で、現在から将来にわたる日常生活の中で、人体の働きが、科学的な内容から、さらに社会や環境との影響も含め、実際役立て使える理解を目指します。感染症、成長発達と老化、メンタル疾患や認知症、生活習慣病、健診や予防接種、アレルギーや悪性腫瘍など、人体の構造と機能と結びつけながら、今後自分で考え行動を選択できるように工夫します。【SDGs：3】			
授業計画	① ライフサイクルと身体の課題 ② 妊娠期の男女の身体の課題 ③ 出産期の男女の身体の課題 ④ がん：予防、検診、治療、緩和医療 ⑤ 老いと介護 ⑥ 感染症：風邪、インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症 ⑦ 乳幼児期の身体の成長発達と栄養 ⑧ 健診、検診、予防接種 ⑨ 学童期・思春期の身体の成長発達と栄養 ⑩ 思春期の親子の課題（心身、男女） ⑪ 基本的生活習慣と生活習慣病 ⑫ 生活習慣病と栄養 ⑬ 結核・パンデミックと社会生活 ⑭ 応急処置及び救急医療を受ける時 ⑮ メンタル疾患と身体と栄養 ⑯ 定期試験			
予復習等	予習：1年時の解剖生理学の教科書を内容に合わせた分野の個所を読んでおく 復習：配布資料を読み返す レポートを作成することもある			
評価方法	【自科学生の場合】出席状況及び授業態度 30% 授業期間内小レポート40% 定期試験30% 【他科学生の場合】出席状況及び授業態度 30% 授業期間内小レポート40% 定期試験30%			
履修条件	学修規定による			
教科書	解剖生理学で使用した教科書			
参考書	なし			

科 目 名	病理学(医療・福祉領域 選択) Pathology		単 位 数	1
			必選区分	選択
開講学科	健康栄養学科（2年後期）		科目区分	講義
担 当 者	前川 洋一		教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	受講者が病気についての正しい知識を持ち、またその知識に基づいて思考できるようになることを目的とします。これは、将来の職務に関連する事柄に留まらず、身の回りに氾濫する健康と病気にまつわる情報について適切に判断する能力の獲得を意図しています。この授業を通して、学生が代表的な病気についての基本的な知識を習得し説明できるようになることを到達目標とします。			
授業概要	【担当者の実務経験：医療機関での医師としての実務経験あり。】 生命現象を支えているのは「食」です。「食」と「病気」の関わりは深く、「食」は種々の病気の原因や修飾因子となります。この授業ではこの関わりについて「病気」の側面から学びます。「病気」すなわち体の異常を知るには、その基礎となる正常状態の知識が必須です。病気を学ぶ際にも常に正常を意識し、病気がどのような機序で正常から逸脱するのか、どれくらい正常から逸脱しているのかについて考え理解していきましょう。各授業では臓器とその機能ごとに関連する病気を取り上げ学習します。一連の講義を通して、人の体に起こる病気についての知識を習得していきます。この授業は選択科目となります。「食」と「病気」の関わりに興味がある人、「病気」について学びたい人の受講を期待します。 【SDGs：3】			
授業計画	① 病態病理学を学ぶ基礎的知識・・・加齢・疾患に伴う変化 ② 栄養障害と代謝疾患 ③ 内分泌系疾患 ④ 消化器系-消化管疾患 ⑤ 消化器系-肝・胆・膵疾患 ⑥ 循環器系疾患 ⑦ 運動器系疾患 ⑧ 定期試験			
予復習等	【予習】各授業で取り上げる疾患に関連した臓器・組織についての解剖学および生理学的知識を再確認しておくこと。 【復習】配布した資料をもとに、知識の整理をして理解を深めておくこと。			
評価方法	出席状況・授業態度：40%、最終レポート：60%			
履修条件	学修規程によります。			
教科書	栄養科学イラストレイテッド『臨床医学－疾患の成り立ち（第3版）』/編：田中明ほか/出版：羊土社			
参考書	プリントを配布する。			

科 目 名	運動科学実験(医療・福祉領域 必修) Experiments in Exercise Science	単 位 数	1
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科（2年後期）	科目区分	実験
担 当 者	松井 卓哉	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	・人体の構造を立体的に理解できる。 ・人体の器官系の機能を説明できる。 ・人体の様々な機能を測定でき、結果の判定ができる。 ・実習結果をわかりやすく表現でき、考察ができる。 ・機器の測定結果ならびに原理について理解できる。		
授業概要	日常の活動による身体機能の変化や人体の構造について調べます。グループに分かれオムニバス式で学習します。9種類の実験テーマを準備するのでローテーションで実習を行っていただきます。 実際の臨床場面で使用する測定機器も使用します。実習テキストを予習してきてください。実験後に実験ノートを提出し実験内容に関連した質問をします。初講に全体のオリエンテーションを実施し実験の心得を説明します。実験内容についても各実験項目毎に説明します。【SDGs：3】		
授業計画	① オリエンテーション ② 血糖値の変動と内分泌機能 ③ 血圧・脈拍・血中酸素濃度の変化 ④ さまざまな器官の組織標本の観察 ⑤ 感覚（1）深部感覚（重量感覚） ⑥ 感覚（2）盲斑測定、味覚 ⑦ 感覚（3）皮膚感覚 ⑧ 血糖値の変動と血圧の変動についてプレゼンテーション		
予復習等	【予習】実験テキストに沿った解剖生理学の予習。実験手技の動画と課題 【復習】実験ノートの作成		
評価方法	出席状況・授業態度(予習課題) 30%、実験ノート・口頭試問60%		
履修条件	学内規定による。解剖生理学を履修していることが望ましい。		
教科書	解剖生理学で使用した教科書		
参考書	新訂 生理学実習書』 日本生理学会教育委員会 監修		

科 目 名	食品加工学実習(食環境領域 必修) Practicum of Food Processing and Preservation	単 位 数	1
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科（2年後期）[岐阜学関連科目]	科目区分	実習
担 当 者	道家 晶子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	学生自ら食品を加工する体験を通して、食品加工に必要な材料、加工方法、製造原理、加工技術を学び、優れた加工食品作りに必要な加工条件、材料の影響、添加物の効果について検討することを目的とする。自ら加工食品を製造することによって、加工食品の製法や食味の違い、殺菌や保存の仕組み、添加物の効果について考える。加工食品の製造過程を学ぶことにより、食品を加工する利点と問題点を考え、今後の食生活に必要な加工食品の将来像を提案することを到達目標とする。		
授業概要	発酵食品、農産加工食品、畜産加工食品、水産加工食品について、代表的な加工食品を原材料から製品まで仕上げる。材料の違いや加工法の違いによる加工食品の種類を理解する。食品添加物の効果や瓶詰や缶詰、真空包装など食品包装材料の種類による長所や短所なども考える。食品を加工する利点と問題点を知り、未来の加工食品について考える。 【SDGs：12, 14, 15】 【岐阜学関連の授業回：②, ⑥】		
授業計画	① 食品製造の注意事項 ② 味噌・ヨーグルトの製造 ③ めん類3種類の製造 ④ 豆腐・蒟蒻の製造 ⑤ ジャム2種類の瓶詰製造 ⑥ みかん缶詰・金柑甘露煮・キムチの製造 ⑦ ソーセージ・蒲鉾・薩摩揚げの製造 ⑧ 米粉ロールパンの製造 ⑨ 試験一記述式（教科書・ノート等持ち込み不可）		
予復習等	【予習】実習書の該当ページを読んでおくこと。 【復習】課題について調べ、まとめておくこと。		
評価方法	出席状況・授業態度30%、レポート20%、定期試験50%		
履修条件	学修規程による。		
教科書	食品加工学実習書テキストを配布する。		
参考書	各々の加工食品関連図書		

科 目 名	食品衛生学実験 Experiments in Food Hygiene	単 位 数	1
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科（2年後期）	科目区分	実験
担 当 者	伊佐 保香	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	・食品衛生検査の意義と目的を理解し説明ができる ・実験方法や測定原理を理解し、微生物試験および理化学試験ができる ・食品の安全性について理解し、衛生管理法の手技を身につけることができる ・実験の結果をまとめ、科学的視点から考察が書けるようになる ・グループワークを通じて、コミュニケーション能力を高める		
授業概要	食品の品質変化には、生物学的要因、化学的要因、物理的要因がある。このような要因に対して適切な方法で検査する方法・手技を学ぶ。生物学的要因では、微生物の取り扱いやそれらを検出する器具の扱いや方法を学ぶ。空中落下菌や手指の細菌検査、食品中の生菌数の測定などを行う。化学的要因・物理的要因では食品の酸度や油脂の酸化について測定を行い、品質劣化について学ぶ。実験の結果はレポートにまとめ、知識の定着を図る。 【SDGs：3, 4】		
授業計画	① 微生物検査の基本操作、衛生管理法、諸注意 ② 食品中の生菌数の測定 ③ 食品中の生菌数の算出 ④ グラム染色による微生物の形態観察 ⑤ 牛乳の品質検査 ⑥ 油脂の変敗試験 ⑦ 発色剤（亜硝酸ナトリウム）の定量 ⑧ 全体のまとめ		
予復習等	【予習】配布プリントを読み、該当箇所の実験の流れをイメージする。 【復習】実験内容を理解し、結果等をまとめる。		
評価方法	出席状況・授業態度30％、実験レポート70％		
履修条件	学修規定による		
教科書	適宜プリントを配布する。		
参考書	『イラスト食品の安全性 第4版』/著：小塚諭編他/出版：東京教学社		

科 目 名	食品品質管理論(食環境領域 選択) Theory of Food Quality Control	単 位 数	1
		必選区分	選択
開講学科	健康栄養学科（2年前期）	科目区分	講義
担 当 者	前澤 重禮	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	学生が食品の品質を管理するための基礎・基本を学ぶと共に、最新の食情報を知識として習得することを授業目的とする。到達目標は、学生が、日常生活において目にする食品を新しい視点で捉えること、さらに食品の科学的特性と食品流通の関連性を理解できるようになることである。さらに、食に関わる社会の仕組みを意識し、食問題の本質を理解できるようになることも目指す。		
授業概要	食品の品質に関わる重要情報を項目毎にまとめ、毎回の授業タイトルに関して、配布プリント等で内容項目を明示し学生の理解度を向上させる。つまり、毎回の講義内容の全てをまとめた資料および講義で使用するPPT資料を配布する。1回90分の講義を8回設定し、食品の品質管理を多面的に把握できるようにする。毎回配付する資料は一定のフォーマットで記載され、講義終了後も講義内容を完全に振り返ることが出来る構成にする。さらに毎回の講義内容を理解できたかどうかを自己チェックできる練習課題を課して積極的自己学習を誘導する。 【SDGs：1, 2, 3, 5】		
授業計画	① 食品劣化の基礎要因 ② 収穫後青果物の呼吸生理 ③ 生鮮食品の包装技術とその原理 ④ 食品の衛生管理と安全 ⑤ 食品添加物の役割 ⑥ 遺伝子組換え食品の基本 ⑦ 農薬と有機食品 ⑧ 畜産物の品質管理 ⑨ 定期試験		
予復習等	【予習】翌週の講義内容に関する予習課題として課し、予習レポートとして提出すること 【復習】毎回の学習内容に関わる課題を毎回提示するので復習に活用すること		
評価方法	予習レポート内容（10％）と最終回に実施する定期試験の得点（90％）の総計で評価。		
履修条件	なし		
教科書	なし。要約ファイルとPPTファイルを配布		
参考書	なし		

科 目 名	食品流通論（食環境領域 選択） Theory of Food Marketing	単 位 数	1
		必選区分	選択
開講学科	健康栄養学科（2年後期）	科目区分	講義
担 当 者	多田 幸代	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	食品流通の現状と課題を理解し、生活者・栄養士としての必要な判断力を養うことを目的とする。食品流通の発展（過去と現状）を学ぶことによって、食品流通のみならず食品業界における現状を自ら考察し課題を見出し解決策を考え、その結果を周囲に発信（アウトプット）する力を身につけることを到達目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：現在、国内外に多店舗展開する飲食店を運営する会社の品質管理担当者として業務を実施している。】 実務経験を活かし現場ならではの実体験をもとに授業を実施する。また、海外の情報も提供する。 現代は、食品は消費起点で生産される。生産、流通、消費という3要素の中の流通とは、ものの生産から消費（あるいは利用）そしてリサイクルにいたる継続的段階である。食品流通は変化し続ける消費者のニーズに対応して多様化している。その現状と今後の方向性を実際の事例を使いながら提示し、安全で安心な食の供給と調達を可能にする方法をみんなで議論する。本授業では、視聴覚教材を活用する。また、グループディスカッションを実施する。 【SDGs：12, 14, 15】		
授業計画	① 外食チェーンにおける品質管理の取り組み ② 食品流通（卸売市場、小売） ③ 流通革命（6次産業化、ブランド化） ④ 冷凍技術の発展、外食産業の発展 ⑤ 食品表示・アレルギー管理 ⑥ 食品流通で起きた問題 ⑦ 食品流通で起きた問題（グループワーク） ⑧ 食品流通で起きた問題（成果物発表会）		
予復習等	【予習】食品流通について、新聞などで最新の現状（問題など）を調査しておくこと。 【復習】疑問に感じたことを調べ理解を深めること。また、自身の考えをまとめること。		
評価方法	【自科学生の場合】授業中の質疑応答70%、授業中に作成する成果物30% 【他科学生の場合】授業中の質疑応答70%、授業中に作成する成果物30%		
履修条件	なし。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	『農産物・食品の市場と流通』/日本農業市場学会/出版：筑波書房 授業内で紹介する。 『飲食店の衛生管理』/著：河岸宏和/出版：日本実業出版社 授業内で紹介する。		

科 目 名	ライフステージ栄養学Ⅱ(医療・福祉領域 選択) Life Stage Nutrition Ⅱ	単 位 数	1
		必選区分	選択
開講学科	健康栄養学科（2年前期）	科目区分	講義
担 当 者	吉川 亮平	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	・『診療ガイドライン』や『栄養管理プロセス』などを用いて傷病者の栄養食事療法を実践するための基礎力を養う。 ・傷病者に対して食事の管理を実践する上で、献立作成や調理などのポイントについて考える能力を養う。		
授業概要	【担当者の実務経験：病院と介護老人保健施設にて管理栄養士として業務に従事した経験あり】 疾病の予防や治療における栄養管理の重要性は医療の現場をはじめ広く認識されている。本講義ではライフステージと関係の深い疾患とその傷病者に対する栄養食事療法について学ぶ。 具体的には栄養管理を行うための方法や、疾患と栄養の関係などについて学習し、健康増進や疾患予防を実践するための知識を取得する。 基本的には教科書を用いて講義を行うが、診療ガイドラインなども活用し、根拠に基づいた栄養食事療法を行うための方法についても学習する。傷病者に対する食事の管理を実践するための基盤を培う。 【SDGs：3, 4】		
授業計画	① 呼吸器系疾患 ② 血管・造血管系疾患 ③ 運動器(骨格系)系疾患 ④ 免疫・アレルギー系疾患 ⑤ 感染症 ⑥ がんとターミナルケア ⑦ 周術期の管理 ⑧ クリティカルケア ⑨ 摂食機能障害 ⑩ 障害者に対するケア ⑪ 小児疾患① ⑫ 小児疾患② ⑬ 妊産婦疾患① ⑭ 妊産婦疾患② ⑮ 高齢期疾患 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】授業前に教科書の該当する内容の確認を行うこと。 【復習】授業の内容を復習し、理解を深めること。分からないことは調べたり質問すること。		
評価方法	出席状況及び授業態度20%、定期試験80%		
履修条件	なし		
教科書	『栄養科学イラストレイテッド 臨床栄養学 疾患別編 第3版』/著：本田佳子ほか/出版：羊土社		
参考書	『第2巻 栄養学の基本』/出版：医歯薬出版株式会社 『第7巻 臨床栄養学』/出版：医歯薬出版株式会社 『臨床病態栄養学 第4版』/出版：文光堂		

科 目 名	栄養管理論 Nutritional Management	単 位 数	2
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科（2年前期）	科目区分	講義
担 当 者	相川 悠貴	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	●対象者のライフステージや生理的・身体特性を踏まえた上で、多様な場における栄養問題の指摘が客観的にできる。 ●健康の維持・増進や疾病の発症予防・重症化予防を目的とした栄養管理の概念について理解できる。 ●様々な分野の事例をもとに、対象特性に応じた栄養管理について説明ができる。		
授業概要	栄養管理とは、食を通じて健康維持・増進と疾病の発症・重症化予防、治療、社会復帰や自立に対する支援を行うことです。本講義では、様々な分野の対象特性に応じた支援の注意点を把握し、食事を中心とした栄養管理の目的や方法について理解を深めます。栄養管理に関する基礎的な知識の習得を目指し、対象者や対象集団にとって効果的かつ効率的な支援とは何かを学びます。 【SDGs：3】		
授業計画	① 栄養管理とは ② 妊娠期、授乳期の栄養管理とケーススタディ ③ 新生児期、乳児期の栄養管理とケーススタディ ④ 幼児期の栄養管理とケーススタディ ⑤ 小テストと要点の再確認：栄養管理とは、妊娠期～幼児期の栄養管理 ⑥ 学童期の栄養管理とケーススタディ ⑦ 思春期の栄養管理とケーススタディ ⑧ 成人期の栄養管理とケーススタディ ⑨ 更年期の栄養管理とケーススタディ ⑩ 小テストと要点の再確認：学童期～更年期の栄養管理 ⑪ 高齢期の栄養管理とケーススタディ ⑫ 運動・スポーツ実践者の栄養管理とケーススタディ（1） ⑬ 運動・スポーツ実践者の栄養管理とケーススタディ（2） ⑭ 特殊環境下の栄養管理とケーススタディ ⑮ 小テストと要点の再確認：高齢期、運動・スポーツ実践者、特殊環境下の栄養管理 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】各回に関連する1年次の学習内容の知識を定着させておく。 【復習】授業の内容を復習し、理解を深める。		
評価方法	出席状況10％、小テスト45％、定期試験45％		
履修条件	学修規定による。		
教科書	『4訂 応用栄養学実習 第3版 ケーススタディーで学ぶ栄養マネジメント』／編：五関正江 小林三智子／出版：建帛社		
参考書	授業内で紹介する。		

科 目 名	栄養管理実習 Practicum of Nutritional Management	単 位 数	1
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科（2年後期）	科目区分	実習
担 当 者	吉川 亮平	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	・『日本人の食事摂取基準』や『栄養管理プロセス』、『各種ガイドライン』などを用いて栄養食事療法を実践するための能力を養う。 ・栄養管理を行う上で、個人の課題を抽出し、より望ましい食行動を提案することや実際に行動変容の促すためのポイントなどについて考え、実践する能力を養う。		
授業概要	【担当者の実務経験：病院と介護老人保健施設にて管理栄養士として業務に従事した経験あり】 本実習では、人の栄養管理を行うための技術や思考の取得を目標とする。栄養管理の国際的な基準である『栄養管理プロセス』を活用する技術を身につけるため、『栄養評価』、『栄養診断』、『栄養介入』を行うための方法について演習を行う。人の栄養管理を行う上で、明確な答えがあることは少ないと思われることから、本実習を通じて学生自身が考え、議論する能力を培う。 【SDGs：3, 4】		
授業計画	① 給食の管理：食品構成と献立 ② 給食の管理：サイクルメニューの作成 ③ 栄養補給法：経管・経静脈栄養法 ④ 栄養補給法：経口栄養法（嚥下調整食） ⑤ 栄養評価：フィジカルアセスメント ⑥ 栄養評価：消費エネルギー量の推定 ⑦ がん患者の栄養管理：症例検討 ⑧ がん患者の栄養管理：献立作成 ⑨ がん患者の栄養管理：指導媒体の作成 ⑩ がん患者の栄養管理：調理実習 ⑪ 在宅高齢者の栄養管理：症例検討 ⑫ 在宅高齢者の栄養管理：献立作成 ⑬ 在宅高齢者の栄養管理：調理実習 ⑭ MMeCTE(多職種メディカルケアチーム医療教育)ガイダンス ⑮ MMeCTE(多職種メディカルケアチーム医療教育)		
予復習等	【予習】授業前に教科書の該当する内容の確認を行うこと。 【復習】授業の内容を復習し、理解を深めること。		
評価方法	出席状況及び授業態度20%、実習課題80%		
履修条件	なし		
教科書	『栄養科学イラストレイテッド 臨床栄養学実習』／著：中村丁次ほか／出版：羊土社 『改訂新版 栄養管理プロセス』／著：木戸康博ほか／出版：第一出版株式会社		
参考書	『日本人の食事摂取基準(2025年版)』／出版：第一出版株式会社 『第8巻 臨床栄養学実習』／出版：医歯薬出版株式会社		

科 目 名	臨床栄養学実習 Practicum of Clinical Nutrition	単 位 数	1
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科（２年前期）〔岐阜学関連科目〕	科目区分	実習
担 当 者	吉川 亮平	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	・『診療ガイドライン』や『栄養管理プロセス』などを用いて各疾患別の栄養食事療法を実践するための能力を養う。 ・各疾病ごとに食事の管理を実践する上で、献立作成や調理などのポイントについて考える能力を養う。		
授業概要	【担当者の実務経験：病院と介護老人保健施設にて管理栄養士として業務に従事した経験あり】 本実習では、傷病者の栄養管理について、課題の抽出、介入計画の立案、栄養介入、モニタリング、再評価の流れを学ぶ。 また、病院における一般治療食の献立作成を行い、形態調整食や嚥下調整食、各疾患に適した特別治療食などへの献立の展開や調理実習も行う。 臨床の現場において栄養管理を行う上で、明確な答えがあることは少ないと思われることから、本実習を通じて学生自身が考え、議論する能力を培う。 【SDGs：3, 4】		
授業計画	① 一般治療食(常食)の献立作成 ② 一般治療食(軟食)への献立の展開 ③ 一般治療食(軟食)の調理実習 ④ 特別治療食(塩分コントロール食)への献立の展開 ⑤ 特別治療食(塩分コントロール食)の調理実習 ⑥ 糖尿病患者の栄養管理 ⑦ 特別治療食(エネルギーコントロール食)への献立の展開 ⑧ 特別治療食(エネルギーコントロール食)の調理実習 ⑨ 慢性膵炎患者の栄養管理 ⑩ 特別治療食(脂質コントロール食)への献立の展開 ⑪ 特別治療食(脂質コントロール食)の調理実習 ⑫ 慢性腎不全患者の栄養管理 ⑬ 特別治療食(たんぱく質・エネルギーコントロール食)への献立の展開 ⑭ 特別治療食(たんぱく質・エネルギーコントロール食)の調理実習 ⑮ まとめ		
予復習等	【予習】授業前に教科書の該当する内容の確認を行うこと。 【復習】授業の内容を復習し、理解を深めること。		
評価方法	出席状況及び授業態度20%、実習課題80%		
履修条件	なし		
教 科 書	『栄養科学イラストレイテッド 臨床栄養学実習』／著：中村丁次ほか／出版：羊土社 『改訂新版 栄養管理プロセス』／著：木戸康博ほか／出版：第一出版株式会社		
参 考 書	『日本人の食事摂取基準(2025年版)』／出版：第一出版株式会社 『第8巻 臨床栄養学実習』／出版：医歯薬出版株式会社		

科 目 名	栄養指導論実習 Practicum of Nutritional Guidance	単 位 数	1
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科（２年前期）〔岐阜学関連科目〕	科目区分	実習
担 当 者	長屋 郁子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	・様々な健康課題やライフステージに応じた栄養指導（支援）の基本を習得する。 ・対象者のアセスメント課題解決の優先性を決定し、栄養教育プログラムの立案、実施、評価ができる。 ・対象特性に応じた栄養指導（支援）に必要となるプレゼンテーション能力や、コミュニケーション能力を高め、対象者の行動変容を支援する力を身につける。		
授業概要	【担当者の実務経験：小学校等で管理栄養士として業務に従事した経験あり。】 本実習では様々な対象特性に応じた栄養指導（支援）を模擬的に想定し実践してみます。個人を対象とした栄養相談では、行動科学の理論をもとに、対象者とコミュニケーションをとりながら支援をすすめる大切さを学びます。集団を対象とした栄養教育では、幼稚園、小学校、社員食堂、高齢者福祉施設等の様々な支援の場を想定して計画立案し、対象者に応じた内容や教材を工夫します。さらにお互いに聞き手となって評価してみることで理解を深めます。実務経験をもとに、多様な場での対象特性を考慮した支援のポイントを解説します。 【SDGs：3, 4, 11】 【岐阜学関連の授業回：①】		
授業計画	① 実習ガイダンス・栄養教育の基礎（コミュニケーション、学習形態、教材） ② 個人を対象とした栄養相談（１）アセスメント抽出、優先課題の特定、目標の設定 ③ 個人を対象とした栄養相談（２）計画、教材の作成 ④ 個人を対象とした栄養相談（３）実施、評価 ⑤ ライフステージに応じた集団栄養教育（１）課題・目標の設定、プログラム作成 ⑥ ライフステージに応じた集団栄養教育（２）指導案・教材の作成 ⑦ ライフステージに応じた集団栄養教育（３）リハーサル、修正 ⑧ ライフステージに応じた集団栄養教育（４）発表・評価		
予復習等	【予習】「栄養指導論」や「ライフステージ栄養学Ⅰ」等関連科目で習得した内容を理解してくること。発表は、事前準備・練習して臨むこと。 【復習】レポート（ワークシート）の書き込みを見直し、内容を整理しておくこと。		
評価方法	出席状況・受講態度３０％、レポート（ワークシート）４０％、発表３０％		
履修条件	学修規定による		
教 科 書	『健康・栄養科学シリーズ 栄養教育』／編：武見ゆかり他／出版：南江堂		
参 考 書	『改訂 実践に役立つ栄養指導事例集』／編：井川聡子他／理工図書		

科 目 名	公衆栄養学概論 Public Health Nutrition	単 位 数	2
	必選区分	必修	
開講学科	健康栄養学科（2年前期）〔岐阜学関連科目〕	科目区分	講義
担 当 者	長屋 郁子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	・公衆栄養学の意義・役割について説明できる。 ・地域の健康・栄養問題とそれを取り巻く諸要因に関する情報を収集・分析し、それらを総合的に評価する力を身につける。 ・日本の栄養政策、健康づくり対策と推移について説明できる。 ・世界における健康・栄養課題について説明できる。 ・地域の公衆栄養活動を知り、食環境整備への理解、関心を深める。		
授業概要	公衆栄養学は、集団を対象とした公衆栄養活動を伴う分野であり、地域の人々の疾病予防、健康の保持増進、QOLの向上を図ることを目的として、人々の健康づくりを栄養面から支援するための理論と実践を身につける学問です。近年わが国では、生活習慣病の増加や、少子高齢化などの問題に直面しており、公衆栄養活動で取り組むべき課題は多くあります。また国際レベル、生態系の保全など地球レベルでの栄養学の理解も求められています。本講義では、それらを踏まえた公衆栄養活動を実践できる基礎学力と視点を培うことを目指します。健康づくり政策や健康・栄養関連の調査、公衆栄養活動については、岐阜県や岐阜市など身近な地域の事例を取り上げて具体的に解説します。 【SDGs：1, 2, 3, 4, 5, 11, 12】 【岐阜学関連の授業回：③, ④, ⑧, ⑬, ⑭】		
授業計画	① 公衆栄養の概念 ② 公衆栄養活動の歴史 ③ 日本の健康・栄養・食の現状と課題（1）疾病構造・栄養課題の変化、健康寿命 ④ 日本の健康・栄養・食の現状と課題（2）食生活・食環境の変化、食料自給率 ⑤ 諸外国の健康・栄養・食の現状と課題、国際的な栄養行政組織 ⑥ 日本の栄養政策（1）公衆栄養活動と役割 ⑦ 日本の栄養政策（2）健康増進法、食育基本法、栄養士法等関連法規 ⑧ 日本の栄養政策（3）国民健康・栄養調査、岐阜県食生活等実態調査等 ⑨ 栄養疫学の概要、食事摂取量の測定方法 ⑩ 健康づくり対策の推移と展開（1）健康日本21（第3次） ⑪ 健康づくり対策の推移と展開（2）健康づくりに関する指針、ガイドライン ⑫ 公衆栄養活動の展開（1）地域包括ケアシステム、特定健診・特定保健指導 ⑬ 公衆栄養活動の展開（2）公衆栄養活動事例、災害時の栄養対策 ⑭ 公衆栄養活動の展開（3）地域・職域における食環境整備 ⑮ まとめ ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】教科書の該当ページを事前に読んでくること。 【復習】教科書や配布資料などを参考に、授業内容を整理して理解を深めること。		
評価方法	出席状況・受講態度30％、定期試験70％		
履修条件	学修規定による		
教科書	『ウエルネス公衆栄養学2025年版』／編：加藤浩子ほか／出版：医歯薬出版株式会社		
参考書	『2025年版管理栄養士栄養士必携データ・資料集』／編：日本栄養士会／出版：第一出版		

科 目 名	栄養士実習 Dietitian Training	単 位 数	1
	必選区分	栄養士必修	
開講学科	健康栄養学科（2年全期）	科目区分	実習
担 当 者	長屋 郁子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	・対象者及び対象集団に合わせた栄養教育（指導）プログラムが立案できる。 ・栄養カウンセリングの基礎的技法を習得する。 ・対象特性に応じた教材を作成・選択し、栄養教育（指導）が実施できる。 ・評価の結果を総合的に捉え、プログラムの見直し・改善点を提案できる。		
授業概要	【担当者の実務経験：小学校等で管理栄養士として業務に従事した経験あり。】 「栄養と健康」、「栄養の指導」、「給食の運営」の分野で学修した内容を踏まえて、栄養マネジメントサイクルの実践を行います。対象特性に応じた栄養マネジメントの立案、実施、評価、改善の一連を通して理解を深め、グループディスカッションやデモンストレーションなど主体的に学びます。様々なケースや場面に対応する栄養カウンセリングのロールプレイを通して、基礎的技法の習得を目指します。また、地域の栄養教育の実例として食育SATシステムの活用や、災害等に備えた食支援を体験し理解を深めます。 【SDGs：3, 4】 【岐阜学関連の授業回：①】		
授業計画	① 実習ガイダンス、食育SATシステムを活用した栄養教育 ② 災害等に備えた食支援の実践（1）災害時の栄養管理 ③ 災害等に備えた食支援の実践（2）日常の備え ④ 栄養相談の実践（1）栄養カウンセリングの基礎的技法 ⑤ 栄養相談の実践（2）教材作成 ⑥ 栄養相談の実践（3）実施・評価 ⑦ 栄養相談の実施（4）見直し・改善 ⑧ 対象特性に応じた栄養教育（1）対象集団の把握、課題抽出、テーマ設定 ⑨ 対象特性に応じた栄養教育（2）立案、教材作成、提案メニュー決定 ⑩ 対象特性に応じた栄養教育（3）準備リハーサル・修正1 ⑪ 対象特性に応じた栄養教育（4）準備リハーサル・修正2 ⑫ 対象特性に応じた栄養教育（5）発表1（調理デモンストレーション含む）・評価 ⑬ 対象特性に応じた栄養教育（6）発表2（調理デモンストレーション含む）・評価 ⑭ 対象特性に応じた栄養教育（7）発表3（調理デモンストレーション含む）・評価 ⑮ まとめ		
予復習等	【予習】関連科目の学修内容を理解してくること。発表は、事前準備・練習して臨むこと。 【復習】レポート（ワークシート）の書き込みを見直し、内容を整理しておくこと。		
評価方法	出席状況・受講態度30％、レポート（ワークシート）40％、発表30％		
履修条件	学修規定による		
教科書	『健康・栄養科学シリーズ 栄養教育』／編：武見ゆかり他／出版：南江堂		
参考書	必要に応じて、適宜紹介する。		

科 目 名	給食管理実習Ⅱ Practicum of Food ServicesⅡ	単 位 数	1
		必選区分	栄養士必修
開講学科	健康栄養学科（2年前期）	科目区分	実習
担 当 者	佐喜眞 未帆	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	・特定給食施設における給食管理を行うことができる ・栄養士としてのマネジメント技術を修得する ・自らの課題を明確にし、グループ内、グループ間の連携をとり、協働することができる		
授業概要	給食管理実習Ⅰに引き続き、給食施設の種類（事業所、高齢者・介護福祉施設、病院、学校）に応じた目的を明らかにし、特定給食施設での大量調理と食事提供の実際、食事サービスマネジメントを実習を通じて理解する。実習では栄養士班、調理員班に分かれ、大量調理施設衛生管理マニュアルを遵守し、安全を確保した作業管理を行う。 【SDGs：3, 4, 12】		
授業計画	① オリエンテーション、試作献立の決定、試作準備、帳票確認、厨房掃除 ② 試作、試作後の検討、献立見直し、帳票類の作成、栄養指導媒体の作成 ③ 帳票類の作成、栄養指導媒体の作成、大量調理実習シミュレーション ④ 大量調理実践（学生献立1）栄養士班、調理班に分かれて厨房実習を行う ⑤ 大量調理実践（学生献立2）栄養士班、調理班に分かれて厨房実習を行う ⑥ 大量調理実践（学生献立3）栄養士班、調理班に分かれて厨房実習を行う ⑦ 大量調理実践（学生献立4）栄養士班、調理班に分かれて厨房実習を行う ⑧ 実習のまとめ、レポート提出 大量調理実習では、栄養士班、調理員班に分かれて作業を行います。作業内容をよく把握し、各自課題を持ち責任ある行動をとること。事前に帳票類の提出を求めます。責任を持って期日までに提出すること。また、安全な実習を行うため、健康管理、グループ内、グループ間の連携、協働が求められます。		
予復習等	【予習】給食管理、給食管理実習Ⅰで学修した内容を復習しておく。大量調理施設衛生管理マニュアルを熟読し、厨房実習では、担当する作業内容の確認と全体の流れを把握する。 【復習】当日の作業（担当及び全体）について反省点・改善点をまとめる。		
評価方法	出席状況・実習態度30％、事前事後の準備30％、提出物40％		
履修条件	「給食管理実習Ⅰ」を履修していること。 腸内細菌検査を受けること（検査項目及び検査日は初回の講義で指定する）。		
教 科 書	『給食の運営管理実習テキスト（第8版）』/著：辻村由美ほか/出版：第一出版 『調理場における衛生管理&調理技術マニュアル』/著：文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課/出版：学健書院		
参 考 書	『日本人の食事摂取基準（2020年版）』/第一出版 エスカパーシク『給食の運営管理論—計画と実務—』改訂新版/編著：芦川修貳ほか/出版：同文書院		

科 目 名	給食管理実習Ⅲ Practicum of Food ServicesⅢ	単 位 数	1
		必選区分	栄養士必修
開講学科	健康栄養学科（2年後期）	科目区分	実習
担 当 者	佐喜眞 未帆	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	管理栄養士養成施設における臨地実習及び栄養士養成施設における校外実習要領に「給食業務を行なうために必要な給食サービス提供に関し、栄養士として具備すべき知識及び技能を修得させることを目的とし、実施されるものである。 実践力を養うために特定給食施設において、給食の意義や目的などをはじめ、給食システム、生産管理、工程管理、食材管理、品質管理、原価管理、衛生管理、施設設備管理、帳票類の管理、人事労務管理、人材教育、危機管理などを理解する。また、多職種連携や地域連携、基本的人権・個人情報保護などについても理解する。		
授業概要	「給食の運営」の教育目標に則し、給食業務の概要について理解するとともに、給食計画を含め、給食の実務について理解する。 専任の管理栄養士の指導のもと1週間（45時間）の校外実習をおこない、給食管理・運営、衛生管理、大量調理など実際の現場での栄養士業務を体得する。実習先は、病院、福祉施設、産業給食などの特定給食施設である。 【SDGs：3, 4】		
授業計画	① オリエンテーション（校外実習の目的・概要、心構え） ② 事前指導（事前挨拶時、校外実習中の諸注意、実習ノートの書き方、他） ③ 施設別事前指導（栄養士業務、課題研究への取り組み） ④ 校外実習（45時間） ⑤ 事後指導（実習報告会）		
予復習等	【予習】授業前に必ず該当する科目の教科書、資料等に目を通しておくこと。 【復習】授業のテキストやノート、配布資料をみて復習し、理解を深めること。 課題研究に必要な資料を収集し、疑問点については、調べてまとめておくこと。		
評価方法	校外実習における出席・態度・施設指導者の評価 60％、 事前・事後指導における出席・態度 10％、提出物 30％		
履修条件	「給食管理実習Ⅰ・Ⅱ」を履修していること。 腸内細菌検査を受けること（検査項目及び検査日は初回の講義で指定する）。		
教 科 書	『管理栄養士・栄養士になるための国語表現』/著：田上貞一郎、田中ひさよ/出版：萌文書林 『給食の運営実習ノート2（病院給食）または3（学校・事業所給食）』/出版：同文書院		
参 考 書	大量調理施設衛生管理マニュアル（厚生労働省）		

科 目 名	地域実践演習（卒業研究） [健康] Seminar on Regional Activities (Graduation Thesis / Works)	単 位 数	2
		必選区分	選択
開講学科	健康栄養学科（2年全期）	科目区分	演習
担 当 者	各担当教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	各指導教官の指導のもと、各自で、「食と健康」の領域において、問題・課題を見つけ、その解決に向けて卒業研究を行い、最終的にはその内容を論文としてまとめる。卒業研究をやり遂げることで、将来、栄養士として、科学的根拠に基づいて、自ら考え、計画を立て、行動できる能力を養うことができる。		
授業概要	各指導教官の指導のもと、独自の研究テーマについて研究を行い、卒業論文としてまとめる。具体的には、論文の読み方や研究の進め方について理解し、得られた研究結果の正しい評価の仕方、他の学生とのディスカッションや文献等を通して、さまざまな見解があることを踏まえながら論文をまとめていく。また、卒業研究を通して、ディスカッションできる能力を習得し、問題に対するアプローチの能力を向上させ、問題解決能力を身につける。 【SDGs：3, 4】		
授業計画	① 各指導教官の計画に従う。 ～ ⑩		
予復習等	【予習】事前にしっかり準備し、研究を行う。 【復習】データを整理し、分析する。		
評価方法	平常点（研究への取り組み状況） 50％、卒業論文の内容等 50％		
履修条件	なし		
教科書	『栄養士・管理栄養士をめざす人の文章術ハンドブック』 著：西川真理子／出版：化学同人		
参考書	必要に応じて、適宜紹介する。		